

平成21年度宇治市小中一貫教育推進協議会会議録

会議名	平成21年度第2回宇治市小中一貫教育推進協議会
日時	平成22年1月20日（水） 8時30分～10時30分
場所	宇治市役所議会棟 第3委員会室
出席者	（委員） 高乗会長 山添副会長 白谷委員 中村委員 薮委員 吉田委員 迫委員 糸井委員 園部委員 八木委員 山花委員 （事務局） 栢木教育部長 櫻木教育部次長 今西教育指導課総括指導主事 山下小中一貫教育課長 後藤小中一貫教育課主幹 本田小中一貫教育課指導主事 井関小中一貫教育課学校教育指導主事 久保小中一貫教育課主任 （業者） 株式会社佐藤総合計画 渡辺氏 竹馬氏 （傍聴者） 2名
欠席委員	なし
配布資料 資料1－「(仮称) 第一小中一貫校整備事業に係る実施設計説明資料」 資料2－「説明資料図面集」	
1 開会 栢木教育部長より挨拶 2 報告及び協議事項 (仮称) 第一小中一貫校整備事業に係る実施設計について、資料1及び資料2に基づき事務局より説明。 〈質疑応答等〉 【実施設計内容について】 (委員) 平成21年3月の基本設計以降の変更点などはないか。実施設計の検討段階でワークショップ等を実施したと聞いているが、そこで出た意見や要望がどのように今回の実施設計に反映されているのか。 (事務局) 基本設計以降、地域・保護者向けの説明会、宇治小学校教員向けの説明会、市内小・中学校教員による検討会、宇治小学校児童によるワークショップを実施した。そこで出た主な意見や要望に対する対応については次のとおりである。 まず、安全・安心に係ることとして、視野の確保の観点から、校長室、保健室の位置を変更し、校長室からはビオトープやいこいの園側、保健室からはサブグラウンド側の視野を確保するとともに、通用門、地下部分に複数台防犯カメラを設置する。また、土日祝日等の地域開放エリアについても通常の校舎エリアと区分できるようにし、	

セキュリティ関係の設備を整えている。また、メイングラウンドへ直接整備車両や緊急車両等が進入できる門を新たに設置している。

次に教育活動や学校運営に係ることとして、普通教室の面積は市内小・中学校同様の 64 m²を確保するが、教材・教具を教師ステーションや教具庫を活用することで、教室を広く使える工夫をしている。また、特別教室については教室の向きや黒板の位置について教職員からの意見を参考に設置する予定である。給茶コーナーについては複数設置とし、利用が多いと見込まれる前期部分の 2 階、3 階に各 1 箇所ずつ設置している。トイレは小便器については自動洗浄、大便器については洋便器も設置することとし、発達年齢を考えて前期部分については各学年ごとに 1 箇所ずつ設置している。更衣室については中期・後期部分に近い位置に配置している。特別支援学級の教室については、中学校部分の通常の学級とのつながりを考え、配置場所を中期・後期部分がある南校舎に変更するとともに、小・中学校ともに天井吊り下げ用の遊具が設置できるようなしつらえとしている。プールについては直射日光が当たらないように屋根を付けられないかとの意見があったが、風致地区の高さ制限の関係から屋根の設置は困難であったので、プールサイドに折りたたみ式のテントを設置している。保健室については、基本設計時南校舎の南端に配置していたが、利用頻度は前期部分が多いと思われることから、前期部分に近い場所に変更している。通級指導教室については、使い勝手を考え、居室を細かく区分している。

児童によるワークショップにおいては、グラウンドの芝生化や雨でも遊べるスペースがほしいとの意見があった。これについては、スポーツストリートやピロティは上部に屋根があるため、雨の日でも遊べるスペースとして確保できるとともに、サブグラウンドを天然芝とする予定である。また、図書室を大きくし、図書の冊数も多くしてほしいとの意見があったが、計画しているメディアセンターは普通教室約 5 室分あり、ほかに作業ギャラリースペース等にも図書を置くことが可能となっている。次に、記念碑や樹木をできるだけ残してほしいとの意見があったが、これについては可能な限り残す方針である。また、うさぎ小屋やビオトープを残してほしいとのことであったが、いこいの園にうさぎ小屋、ビオトープを設置する予定である。

(委員)

現在の宇治小学校ではトイレが少なく、学校でトイレをしない子どももいると聞いている。前期部分は十分であると思われるが、中期・後期部分についてはトイレが少ないのでは。また、トイレは児童生徒の溜まり場となりやすく、例えばトイレに中学生が集まっていれば小学生は利用し難いのではないか。

(事務局)

総便器数については、文部科学省が以前に示した学校環境衛生の基準以上の数を確保できている。トイレの箇所数については、前期では発達段階を配慮して、各学年に 1 箇所ずつ、中期・後期については日頃からブロックごとの交流を行い仲間意識を育むこともあり、ブロックごとに 1 箇所で支障ないものと考えている。

(委員)

体育倉庫は何の用具を収納するのか。部室が 5 つある根拠はなにか。職員の私物等はどこに保管するのか。学校では掲示物を教室や廊下の壁面に掲示すること多いが、仕様はどうなっているのか。

(事務局)

体育倉庫は基本的にメイングラウンドとサブグラウンドで使用する用具を収納する。部室については、屋外で行う部活の用具を収納することを想定しているが、明確に用途を特定したものではない。職員ロッカーは職員更衣室・職員休憩室に配置可能。教室内は掲示板を設置しており、廊下についても掲示スペースを各所に設置する予定である。

(委員)

地域開放時に使用できるシャワールームはないのか。

(事務局)

考えていない。

(委員)

プールが屋上にあるが、落下防止のためにフェンスをもっと高くすることはできないのか。また、宇治病院の病室等からプールが見えるようなことはないか。

(事務局)

風致地区の関係上、これ以上フェンスを高くすることは困難。現在でも 1.8m あり、落下の危険性はないと考える。宇治病院の屋上からであればプールが見えると思われる。

(委員)

バルコニーについては、運動会等で開放すれば非常に良いギャラリーとなると思うが、可能か。また、バルコニーから教室へは直接出入りできるのか。交流サロンでも共通することであるが、ガラス部分が大きくなると、夏は暑く、冬が寒くなったりしないのか。

(事務局)

バルコニーは教室から直接出入りすることができる。一番広い所で幅 3.5m、狭い所でも 1.5m あり、ギャラリーとしても機能すると思われる。教室については全て空調を設置し、交流サロンについては床面に冷暖房装置を設置しており、それに加えて夏場は暖かい空気を交流サロン上部へ逃がし、冬場は暖かい空気を交流サロン上部から下へ取り込む方式を採用している。

(委員)

グラウンドが狭いのではないかと意見もあるようだが、市教委が今の設計のグラウンド面積で十分と言える根拠は何か。グラウンドを使用する部活の想定はあるのか。

(事務局)

グラウンドを使用する部活としては、野球部・サッカー部・陸上部・テニス部が想定される。メイングラウンドの面積だけで言うと確かに市内の中学校と比較して小さいが、周辺自治体で見ると同水準もしくはさらに小さなグラウンドの中学校もある。

部活の活動計画の組み方次第で十分対応可能である。

(委員)

子どものロッカーはどうするのか。また、授業のために工夫した仕様等になっているのか。

(事務局)

子どものロッカーは教室内に設置する予定であるが、廊下に置くことも可能である。普通教室については、特別な仕様にはしていないが、多目的教室やメディアセンター等で多様な授業形態が可能である。

(委員)

雨天時の遊び場としてスポーツストリートやピロティの活用が考えられる。かなり広いと思われるが、それぞれの面積はどの程度か。

(事務局)

スポーツストリートが約 800 m²、北校舎側のピロティが約 220 m²である。

(委員)

学校は地域のボランティアの方々にお世話になることが多いが、控室や休憩してもらい場所が今まで無かった。今回の設計ではボランティアルーム等が確保されており、学校にとっては有難い配慮である。

【工事日程について】

(委員)

工事期間中の地域開放については、どの程度活動ができるのか。

(事務局)

大久保小学校改築の際と同様、グラウンド使用については工事期間中は他の施設を利用してもらうことになる。ただ、少なくとも体育館だけは残す工程にしているので、夜間の体育館利用は可能である。また、今回の資料の工事エリアは想定される最大の範囲であり、施工業者との調整により変化する可能性はある。

(委員)

平成 24 年度 4 月の開校時、中学生が部活をできないのは問題ではないか。他の施設等を代替地として借用できないのか。

(事務局)

他の施設の借用については検討中である。また、部活を行う際に先輩がいないと不安ではないかとの意見を保護者からいただいている。その観点から、他の自治体では複数校で部活を行った例もある。本校においてもこのようなことができないかも検討することができる。

(委員)

工事期間中、教職員の自動車はどうするのか。

(事務局)

基本的に学校敷地内には教職員用の駐車場は無い。

(委員)

グラウンド等の代替地については、市教委から積極的に提示した方が保護者の信頼が得られるのではないか。

(委員)

代替地については、プールや工事期間中の児童の安全も含め協議中であると事務局から聞いている。

(委員)

本推進協議会は宇治市の小中一貫教育について協議する場であるが、今回の議題は一貫校の案件のみである。他の小中学校はどう考えているのか。

(事務局)

本日は実施設計をもとにして一貫校に特化したものとなったが、引き続き今後とも宇治市全体の小中一貫教育について検討していただくこととなる。

(会長)

小中一貫校を建設する上でのポイントは、従来の学校教育と比較して過不足がないか、今後の教育活動に可変的に対応できるか、小中一貫教育が充実したものになるような施設か、の3点であると思う。このような点を参考に今後の事業を進めていただきたい。